

5年生保護者様

子どもたちの未来のために

第1号

～選べる道を増やすには～

令和2年 4月10日

港区立赤坂小学校

校長 齋藤 恵

5年学年主任 保坂 司

学年便りでお伝えしたように、学年便り特別版「子どもたちの未来のために」では、私たちの指導理念をお伝えしたり、行事のこと、学習のことをご説明したり、ご質問やお悩みになっていることに対してお答えしたりしていきます。間を空けずに発行する予定ではありますが、行事等で忙しいときには、難しいこともあると思います。その際はご理解のほどお願いいたします。

伸びるのに大切なことは何でしょう？

最初の話は、保護者の皆さんが一番興味深く思っていることです。すなわち…伸びるのは、どんな子？です。この答えはとても単純です。同時に、日々の5年生の指導事項ですので、ご理解していただけると嬉しいです。

活気あふれる若者の街…。学校を取り囲むように巨大マンションが乱立している街…。中小工場がたくさんある街…。マダム（?!）が闊歩している街…。私が今まで赴任した小学校がある街です。どこも特徴的な街でした。流行の発信源であったり、学区域がとんでもなく狭かったり、受験に熱心でなかったり、ほぼ全員が受験をしたり…。『どうして、学区域によってこんなに違うのだろう…。』とっていました。

しかし、街の特徴が異なっても、伸びる子の特徴は同じでした。どんな地域に住んでいても、どんな学校に通っていても、どんなに学力に差があっても、どんなにやんちゃな子でも、伸びる子には全て同じ傾向がありました。それは、「生活習慣がしっかりとしている子」または「よい生活習慣に改善できた子」です。

「生活態度がよいと、本当に勉強ができるの?!」と疑問をもたれたでしょうか。実を言うと“よい生活習慣”の中には、学力を伸ばす必要条件が含まれているのです。生活習慣といってもたくさんあるので、その中から、『あいさつ』を例に挙げましょう。あいさつができる子の授業中の態度をイメージしてみてください。そして、できない子の授業中の態度もイメージしてみてください。みなさん、以下のように考えたのではないのでしょうか。

あいさつが元気に進んでできる子のイメージ

元気よく「はい!」と返事をして、積極的に物事に取り組むことができる。授業中の発言が多く、間違いを気にせずに自分の意見を発表できる。発言力があるので、全体の場で仕切ることも多く、リーダーの役割ができる。

あいさつができない子のイメージ

「はい」が言えず、「えっ?」「なんで!」と否定的な返事、または何も言わないことがある。授業中は、発言をしないことが多く、気が付くと手いたずらやボーっとしていることがある。ノートの書き取りも怠りがちになる。

もちろん必ずその通りとは限りません。しかし、現実に近いところがあるのは確かです。「いやいや、あいさつしなくても、勉強できる子がいるのではないか」ですか?この論理には2つ落とし穴があります。

- ①小学校の学習は、高学年までは簡単なので、授業中に発言をしなくても、話を聞いていなくてもドリル学習のみでできてしまう場合がある。内容が高度になる中学校以降に、伸び悩む可能性がある。
- ②皆さんが人事課担当になったとすると、学力は高いが、コミュニケーションを苦手とする人を採用したのだろうか。将来を考えると「あいさつ」の力は学力と同じくらい重要なファクターになるのではないか。

「あいさつ」一つを例に挙げて将来に渡って大きな影響があることにお気づきになったのではないのでしょうか。他の生活習慣ができているのなら、どれほどのメリットがあることか…。それは次回にお伝えします。